
Lost Angels

安楽樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Lost Angels

【Nコード】

N5007Q

【作者名】

安楽樹

【あらすじ】

よくある現代異能力ものです。

最高潮（クライマックス）（前書き）

更新後回しです。

最高潮（クライマックス）

「があああああっ！！！」

「何だ！？何でこんなことになった？一体何なんだよ！！！」
庸ようが叫ぶ。その時、誰もがそう思っていた。

「知るかつ！こっちが知りてえよっ！」

「おい前見ろっ！」

「来るよ！気をつけて！」

その声の一瞬の後、彼らがいた場所は陥没した。巨大なコンクリートが飛んできたためだ。それより一瞬早く彼らは散開し、間一髪直撃は免れた。

……炎に囲まれている。

彼らがいる建物は炎上し始めていた。

彼らの目の前には怪物が立っていた。身長二mを越すかと思われる大男だ。体格は彼らの誰よりもがっしりしていた。こっちを見て愉快そうに笑っている。

「……………クックククククッ……………」

怪物は手には棍棒を持っていた。……………棍棒？いや、違う。丸太だ。工事現場においてある丸太を片手で軽々と持ち上げていたのだった。……………『鬼』。彼らが抱くイメージを表現するには、その言葉が一番似合っていた。

工事中のビルの四階。周りにはコンクリートの壁や鉄骨がまだ剥き出しの状態になっている。

「ククク、どうしたお前ら。お前らの力はその程度か」

「や……ろおっ！」

悔しそうに庸が齒軋りをする。鬼はまだ、かすり傷一つ負ってはいなかった。

「どうした相模^{さがみ}。もう後がないぞ？」

その言葉に横目で見ると、ほんの二メートルほど先にはもう床がなかった。それでも庸は怯えた様子など見せず、虚勢を張る。

「調子に乗ってんのも今のうちだぜ？」

「ほお、そこまで強がれるのは大したものだ。けど、死ねよ」
「相模っ！」

慌てて光樹^{みつぎ}と総一郎^{そういちろう}が駆け寄ろうとする。しかし、鬼は持っていた丸太を軽々と投げ付け、それを避けるために二人はバランスを崩した。丸太は近くに置いてあったセメントか何かの袋に当たり、周囲に粉が舞い散る。

巻き上がる粉で視界を失った二人は、庸の元へ駆けつけることができない。

「ちっ！」

「相模君！」

仲間の声だけが、鬼と庸の所へ届いた。

「いい仲間を持って幸せだなあ？相模」

「……ああ。お前じゃなくてほんとに良かったぜ」

「フッ、あばよ」

鬼が右足を叩きつけると、庸の周りの床が無くなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5007q/>

Lost Angels

2011年10月8日14時42分発行